

発掘成果をふりかえって1995

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

私たちが住んでいる京都は、遠く1万年以上も前から人々が生活を始めています。そして、地面の下にはさまざまな時代の人々の活動の跡(遺跡)が残っています。これらの遺跡を、実際に地面を掘り下げて、生活した跡(遺構)や、使っていた道具など(遺物)を調べるのが発掘調査です。こうした作業を積み重ねていくことによって、昔、そこがどのような所だったのか、その時代の人達の暮らしの様子が少しずつわかってきます。

今年も京都市内で、平安京跡をはじめとして、多くの発掘調査や立会調査が行なわれ、さまざまな遺構や遺物を発見しました。ここでは、それらの成果の中から主だったものを紹介しましょう。



1 北白川廣寺塔跡 左京区北白川東瀬ノ内町

創建当初(七世紀後半)は瓦積み基壇だったが、後に乱石積み基壇にかわっている。基壇中央の窪みは塔心礎の抜き取り痕跡(北から)。



2 水垂遺跡 伏見区淀橋爪町

古墳時代中期の竪穴式住居で、内部周辺に高まりを持ち、住居の外側には溝がめぐる(北西から)。



3 白河街区跡 左京区岡崎最勝寺町

平安時代後期、尊勝寺関連建物の雨落ち溝(東から)。



4 法金剛院旧境内 右京区花園扇野町
平安時代後期の塔跡と池跡（西から）。



5 平安京左京七条二坊（本圓寺跡）下京区柿本町
戦国時代の本圓寺東限の礎（北から）。



6 日ノ岡堤谷須惠徳窟跡 山科区御陵黒岩
7世紀中頃の甕で、山科窟跡群として初めての本格的な発掘調査（東から）。



7 平安京左京北辺三坊 上京区中立売通新町西入る
13世紀前半の中国産の白磁四耳壺（高さ24.2cm）。



8 中臣遺跡 山科区栗栖野打越町
後期旧石器時代の国府型ナイフ形石器（長さ8.5cm）。



9 京都大学構内遺跡群 左京区北白川道分町
縄文時代晩期の埋葬に使われた深鉢（高さ38.5cm）。



調査地点